

ソニックシティ

SONIC CITY

所在地：埼玉県大宮市桜木町1-441

建築主：埼玉県

日本生命保険相互会社

設計者：株式会社日建設計

施工者：フジタ工業株式会社

竣工：1988年3月31日

Location : Omiya City, Saitama Prefecture

Owners : Saitama Prefecture

Nippon Life Insurance Co.

Architects : Nikken Sekkei, planners, architects, and engineers

Contractors : Fujita Corporation

Completion date : March, 1988



▲南側外観 South side. ▶東側外観 East side.





▲大ホール Main auditorium.

■建築概要

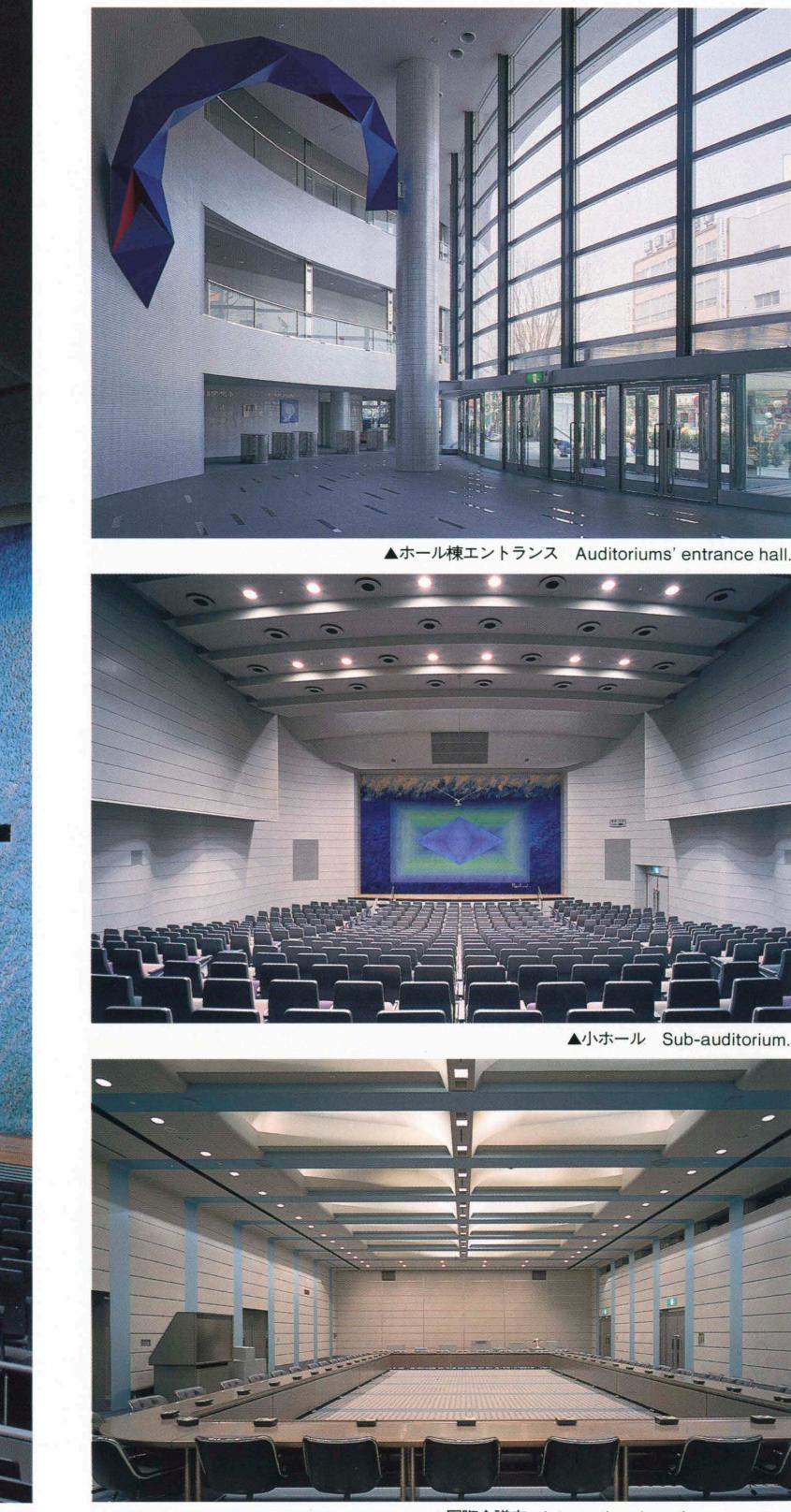
敷地面積 17,484m²
建築面積 12,110m²
延床面積 131,256m²
「ソニックシティビル」
延床面積 107,348m²
構造 (地下部)鉄筋コンクリート造 (地上部)
鉄骨造 (ホテル棟一部)鉄骨鉄筋コンクリート造
規模 地下4階・地上31階・塔屋1階
工期 1986年1月～1988年3月

■仕上げ概要

外部仕上げ 屋根:(高層部)アスファルト防水
押えコンクリート (低層部)アスファルト防水
押えコンクリート磁器タイル貼り 外壁:ラスター釉モザイクタイル打ち込みPC版45角、一部3丁掛ラスター釉磁器タイル打ち込みPC版45角
内部仕上げ [エントランスロビー1・2階] 床:花崗岩JP仕上げ、一部本磨き模様貼り 壁:メーター系セントラル空調
衛生 給水:上水+中水重力式給水方式 給湯:蒸気熱源によるセントラル給湯+電気式給湯器による局所給湯 [ホテル棟]ソーラーシステム

天井:岩綿吸音板 [ホテルロビー] 床・壁:大理石貼り 天井:PB EP-II [ホテル宴会場・客室] 床:カーペット 壁・天井:クロス貼り
■設備概要
空調 熱源:ターボ冷凍機、ダブルハンドルターボ冷凍機、ガス焚温水発生機、炉筒煙管ボイラ
ー 方式:[各階]ハンドリングユニット+ペリメーターリンクセントラル空調
衛生 給水:上水+中水重力式給水方式 給湯:蒸気熱源によるセントラル給湯+電気式給湯器による局所給湯 [ホテル棟]ソーラーシス

テム 排水:分流方式(厨房排水、雑排水:中水)
消火 スプリンクラー設備、泡消火設備、ハロン消火設備、屋内外消火栓設備
排煙 機械式排煙設備
「ソニックシティホール」
延床面積 18,261m²
構造 [地下部]鉄筋コンクリート造 [地上部]
鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
規模 地下2階・地上5階
■仕上げ概要
外部仕上げ 屋根:ステンレス防水フッ素樹脂EP-II 天井:PBガラス寒冷紗下地AR吹付け



▲ホール棟エントランス Auditoriums' entrance hall.

▲小ホール Sub-auditorium.

▲国際会議室 International conference room.

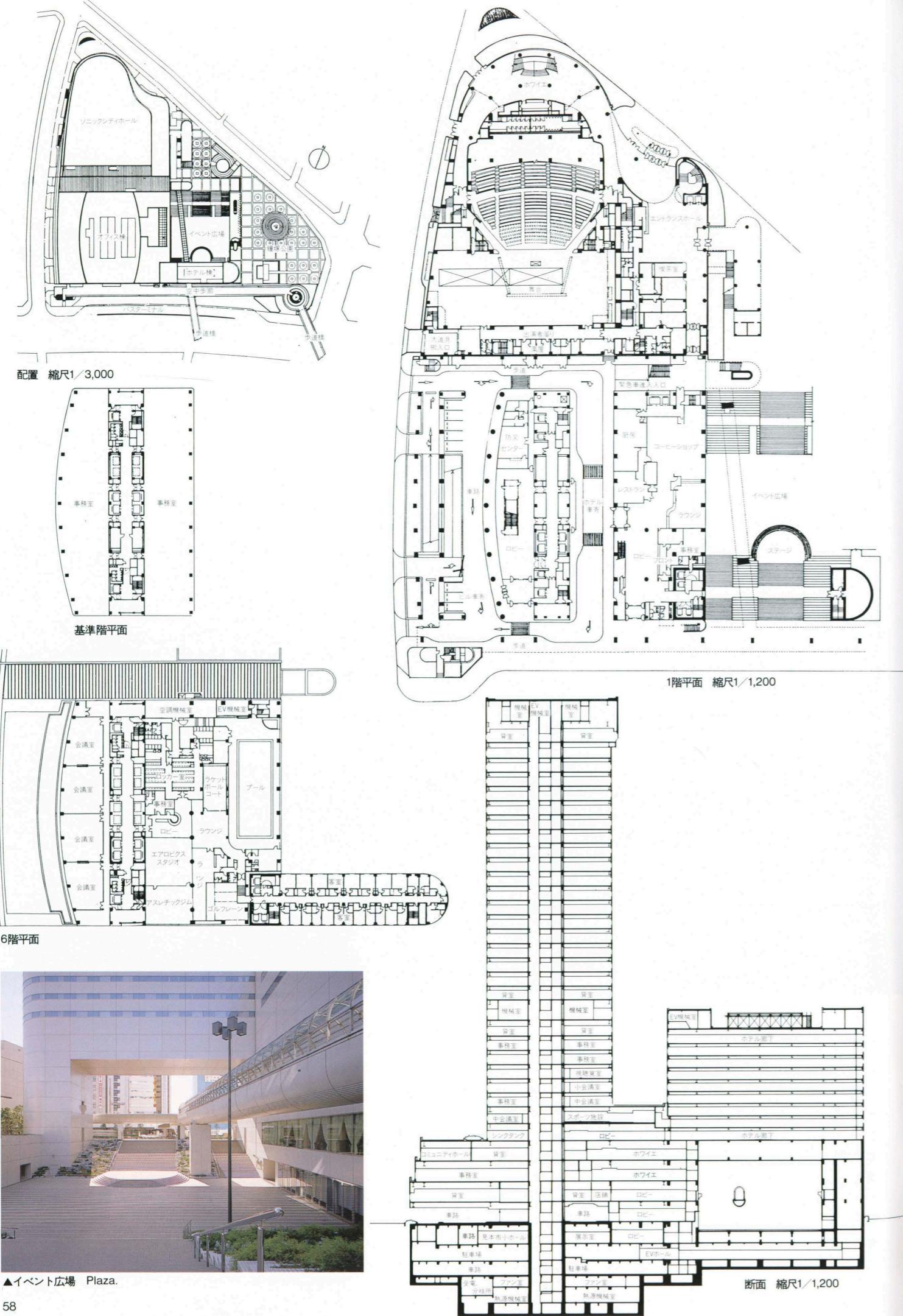
■施設概要

空調 熱源:ガス焚冷温水発生機、セクショナル蒸気ボイラー 方式:エアハンドリングユニット+单一ダクト [楽屋]FCU+外調機
衛生 給水:重力式給水方式 給湯:蒸気熱源によるセントラル給湯 排水:分流方式
消火 スプリンクラー設備、ドレンチャー設備 (ホール内)ハロン消火設備、屋内外消火栓設備
排煙 機械排煙設備

選評

川崎 清・松村慶三・山中 孔

Kiyoshi Kawasaki, Keizo Matsumura, Toru Yamanaka



▲イベント広場 Plaza.

地方の時代といわれて久しいが、地域活性化のための民活事業方式が軌道に乗りつつある。本プロジェクトは、埼玉方式とでもいえる新方式を適用し、建設、運営を展開して、所期の目的を果たしつつある好事例である。

埼玉県は、21世紀への発展をめざし、産業、文化、国際交流の拠点を大宮駅前の再開発の中核施設として計画した。この産業文化センター（ソニックシティ）は、複合かつ多機能の施設であり近隣市街との関連も重視される建築である。

本プロジェクトは、オフィス、ホテル、ホール等機能の異なる要素で構成されるが、それぞれの要求を満足しつつ一体感をもち、周辺の市街地とも積極的に共存しているこの街の佇まいは、再開発の一つの典型ともいえる優れた事例である。

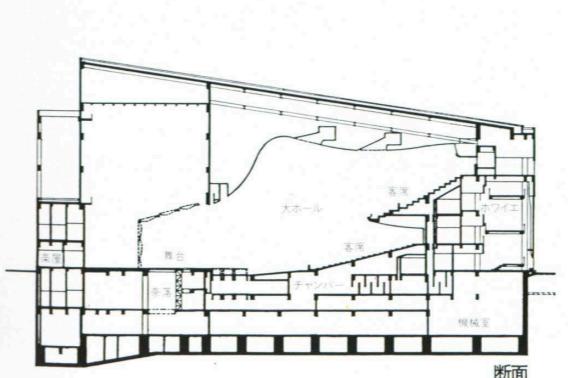
配置計画は、大宮駅からの動線を主軸に広場も巧みに配置され、各棟への動線も明快に分離しつつも、近隣への慎重な配慮がされている。特に主街路からイベント広場へのアプローチは、この建築を強く性格づけている。

オフィスの計画は、効率のよいセンターコアをとり、テナントのためのインテリジェント化もレベル高く図られている。2,500人収容の大ホールは、多目的な催しに最適な音響を提供する残響可変機構を備えた豊かな空間である。ホテルのパブリックスペースもオフィス棟の低層部と構造的に一体となりつつも破綻がない。

多くの技術開発が実施されていることも特筆できる。TV電波の反射障害解消のための電波吸収壁、超高層ビルの地震時ゆれを軽減する制震ダンパー、窓清掃を安全に行う窓拭きロボット等は大きな成果を挙げている。

施工については、この多様な内容をもつ大規模な建築が、標準工期を10%縮めて27ヵ月で完成されたことは、周到な計画がコンピューターの支援を得て実施されたことを物語っている。精度はきわめて高く品質管理にも充分注力されたことを示している。

優れた建築は、建築主の高い見識、設計者の豊かな創造力、施工者の優れた技術力のよい合作が必要な条件であろう。本プロジェクトはこの三者の合作がきわめて高いレベルで果たされ優れた成果が実現している。この三者の努力に敬意を表すると同時に、この建物が長く市民に愛され活力をもって、地域発展に貢献しつづけることを期待したい。



▲31階展望ギャラリー Observatory gallery on the 31st floor.